

## 連帯社会インスティテュート

## I 2020年度大学評価委員会の評価結果への対応

## 【2020年度大学評価結果総評】(参考)

連帯社会インスティテュートの教育内容 について、コースワークとリサーチワークが適切に設定されている。「連帯社会とサードセクター」「サードセクター協働論」が特色ある科目として評価される。教育方法では、カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーに基づいて学生の履修指導が適切に行われている。研究指導計画に基づいた学生の研究報告(1年次に2回、2年次に2回)と、それに対する指導は高く評価できる。成績評価と単位認定も適切に行われている。連帯社会インスティテュート独自のアンケート調査を実施し、FD活動は適切に行われている。2020年度中期・年度目標について、社会人学生の支援に関して前年度と同様に目標達成を期待したい。

外国人学生の受け入れ、兼任講師からのフィードバックの活用、学習成果の測定指標の導入、学習成果を把握・評価するための方法の導入については検討を続けていただきたい。特に学習成果の把握・評価に関して、学生が学位授与方針に示した能力を修得したかどうかを把握・評価するうえでも他研究科の取り組みを参考にしながら早急に取り組んでほしい。

2020年度目標については、進捗状況の確認や課題の抽出、解決に向けたプランを作成のうえ、目標達成のための施策を検討・実施していただきたい。

## 【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

・重点目標の「学生支援における学習支援」への変更は、学生の大半が学部卒業からかなり期間をへているうえ、就労にともなう時間的な拘束が長い社会人学生を主体としているため、一般的な院生とは異なる支援策の必要性を考慮して決定した。これに基づき、学習支援に関する院生のニーズ把握の方法の決定、実施、ニーズ内容の整理を行ったうえで、院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を検討していく予定だった。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、オンライン授業の導入への対応を優先する必要性に迫られ、大きな進捗はえられなかった。一方、オンライン授業の導入により、出張中の欠席や残業にともなう遅刻などが減少した可能性がある。これらの点を確認し、ハイブリッド授業の積極的活用の可能性などを検討していきたい。

・外国人学生の受け入れ、兼任講師からのフィードバックの活用、学習成果の測定指標の導入、学習成果を把握・評価するための方法の導入については、運営委員会と別に教務委員会を2回開催し、検討を行い、課題の抽出や可能な対策について議論した。ただし、具体的な対応策を決定し、実施するまでには至らなかった。

・学習成果の把握・評価に関して、学生が学位授与方針に示した能力を修得したかどうかを把握・評価するうえで、他研究科の取り組みを参考にしながら早急に取り組むことの要請を受けた点については、要請に基づく対応を取っていくことを確認したにとどまっており、今年度、具体的に取り組んでいきたい。

・2020年度目標については、進捗状況の確認や課題の抽出、解決に向けたプランを作成のうえ、目標達成のための施策を検討・実施していく予定である。

なお、外国人学生の受け入れについては、2020年度については、「ゼロ」に戻った。しかし、問い合わせは複数きているので、応募、入学につなげていくように努力していきたい。

## 【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

連帯社会インスティテュートは、COVID-19感染拡大問題の影響で、重点目標である「学生支援における学習支援」(学習支援に関する院生のニーズ把握の方法の決定、実施、ニーズ内容の整理を行ったうえで、院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法)の検討が進捗しなかったため今年度の進捗を期待したい。社会人学生が多い連帯社会インスティテュートでは、オンライン授業の導入により、出張中の欠席や残業にともなう遅刻などが減少した可能性があり、ハイブリッド授業の積極的活用の可能性の検討は評価できる。

外国人学生の受け入れについて運営委員会と教務委員会が開催され議題となったことは評価できる。今後も定期的に議論の場を設け、外国人学生受け入れに向けた情報共有をしていただきたい。

## II 自己点検・評価

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

## 1 教育課程・教育内容

## 【2021年5月時点の点検・評価】

## (1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。</p> <p>・コースワークで教員から専門領域の学習が提供されたうえで、現場の実態の理解を促すために「連帯社会とサードセクター」を設けている。</p> <p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし。</p>	
②専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	
②専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>・労働組合、協同組合、NPOの基本を学生全員が学び、それを踏まえて各プログラムにおいて労働組合、協同組合、NPOを理論的かつ多面的に学ぶことのできる科目を提供している。これに加えて、理論と同時に実践も学べるような講師陣によるプログラム横断的な科目「連帯社会とサードセクター」を提供してきた。2018年度から「サードセクター協働論」の授業を開講し、労働組合、協同組合、NPOの3者の協働について深く学べることになった。</p> <p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・シラバス。</p>	
③大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	
③大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。</p> <p>・連帯社会、サードセクターについての海外の研究者や実務家が来日した際には、連帯社会研究協力センターの協力を得て特別講演を依頼し、学生が受講できるようにしている。2020年度は、新型コロナウイルスの感染により来日がほとんどなかったが、2019年度にはアメリカのNPOの弁護士（11月）とソーシャルワーカー（12月）を講師として招き、セミナーを実施するなどの実績をもっている。また、「比較社会労働運動史」や「NPO論Ⅰ」、「NPO論Ⅱ」「NPOとソーシャルチェンジ」などにおいて、グローバルな視点からの授業が提供されている。</p> <p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・シラバス。</p>	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※履修指導の体制及び方法を記入。</p> <p>・2016年度まで新入生のオリエンテーションの際に、履修モデルを口頭で各プログラムの専任教員が指導していた。2017年度にはカリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーを策定したため、2018年度からこれを活用して、学生の履修指導を行っている。</p> <p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリー。</p>	
②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

態にしていますか。	
<p>※ここでいう「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラバス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します（学位取得までのロードマップの明示等）。また、「あらかじめ学生が知ることの状態」とは、HPや要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。</p> <p>・新入生のオリエンテーションの際に、「修士論文提出までのタイムスケジュール」「修士論文の提出、審査体制、審査基準」という2種類の資料を配布し、説明している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。</p> <p>・上記の資料：「修士論文提出までのタイムスケジュール」「修士論文の提出、審査体制、審査基準」。</p>	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。</p> <p>・1年次におけるゼミ、2年次における論文指導で研究指導、学位論文指導を行っている。さらに、1年次、2年次にそれぞれ「研究報告」を年2回（春と秋）開催し、修士論文につながる研究テーマの発表、論文執筆の進捗状況を発表させている。1年生、2年生ともに、また春秋ともに、いずれも授業の2コマ相当の時間を確保している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし。</p>	
<p>① 通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19 への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合その内容と教育活動の効果について教えてください。</p> <p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>・COVID-19 への対応・対策として、オンライン授業を導入しているが、質問や意見を言いやすいようにするためチャット機能を活用している。また、学生同士で少人数での議論ができるようにするため、ブレイクアウトルームなどの機能も用いるなどの工夫をしている。効果については、検証していないので、不明。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし。</p>	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。</p> <p>・成績評価と単位認定については、3人の専任教員によるシラバスチェックをより厳密に行うことでその適切性を判定している。</p> <p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし。</p>	
②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。</p> <p>・新入生のガイダンスの際に「修士論文の提出、審査体制、審査基準」を配布し、説明している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。</p> <p>・「修士論文の提出、審査体制、審査基準」。</p>	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。</p> <p>・学生は10人程度と少人数で、審査は3人の専任教員が行うため、学位授与状況は容易に把握できる。また、運営委員会に学位授与者のリストを提出、確認している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし。</p>	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>・連帯社会を担っていくのにふさわしい人材として育つよう2年間教育、指導を行っている。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文についても審査基準の一つとして「連帯社会にかかわる課題を適切に取り扱っていること」を掲げている。</li> <li>・各教員はこの基準を念頭に論文指導、論文審査を行っている。</li> </ul>	
<b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	
<b>⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。</b>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※責任体制及び手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・連帯社会を担っていくのにふさわしい人材として育つように、基礎科目、必修科目、選択必修科目を配置している。</li> <li>・各プログラムの基礎科目を全員に学ばせ、また実践家を中心とした多彩な講師陣によるオムニバス授業「連帯社会とサードセクター」を必修科目としている。</li> <li>・各教員はこの教育方針に沿ってゼミ、論文指導を行っている。</li> <li>・修士論文に関してもこの教育方針のもと1年次、2年次に2度にわたる研究報告を開催し、3人の専任教員が共同で責任を持つ体制を整えている。</li> </ul>	
<b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	
<b>⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。</b>	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働組合プログラム、協同組合プログラムの学生は、通常、推薦組織が所属組織になっており、修了後は所属組織に戻るため、特段把握する必要はない。2020年度も同様であった。</li> <li>・NPOプログラムの学生は、推薦制度に基づく選抜ではないが、通常、社会人であるため、新たな就職先や進学先はない。ただし、2020年度には、18年度に法政大学の学部を卒業してすぐに入学した学生がいたが、進学指導の要望はなく、本人自らが就職先を探し、就職した。</li> <li>・これらについては、運営委員会で情報として共有している。</li> </ul>	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	
<b>1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</b>	
<b>①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。</b>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習成果を把握するために、教務委員会において、以下について検討を行った。</li> <li>・学習支援に関連して、プログラムごとにニーズ把握を行うこと。</li> <li>・教務委員会において、院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための具体的な方法などについて検討すること。</li> <li>・ただし、これらについては、具体化に至っていない。</li> </ul>	
<b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	
<b>②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。</b>	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	
<b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし。</p>	
<p>1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	
<p>①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p>・基礎科目、必修科目、選択必修科目については、選択式と記述式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施している。各科目の調査結果を運営委員会で提示し、それを一つの資料として運営委員会および各教員が検証を行っている。</p>	
<p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・「2020年度授業改善のためのアンケート」。</p>	
<p>②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>・基礎科目、必修科目、選択必修科目については、記述式と選択式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施している。各科目についての調査結果は、運営委員会に提示し、授業改善に向けての資料として有効活用している。また、運営委員会メンバー以外の教員（非常勤講師も含む）に対しては、全体の調査結果（選択式の設問）と担当科目の記述式の調査結果をフィードバックしている。</p>	
<p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・「2020年度授業改善のためのアンケート」。</p>	

## (2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし。	

## (3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし。	

## 【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートでは、コースワークで教員から専門領域の学習が提供されたうえで、現場の実態の理解を促すために、理論と同時に実践も学べるような講師陣によるプログラム横断的な科目「連帯社会とサードセクター」を設けている点は評価できる。

教育方法では、カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーに基づいて学生の履修指導が適切に行われている。研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導も適切に行われていると評価できるが、学習成果の測定指標の導入については

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

今年度教務委員会について検討が始められているが、来年度具体化に至るよう引き続き検討が望まれる。

大学院教育のグローバル化推進にあたり、COVID-19 感染拡大により外国人講師の招聘が困難だったとされているが、今後はオンラインやオンデマンドなどのシステムの利用により、活性化が可能だと考えられる。

COVID-19 への対応・対策として、オンライン授業を導入し、質問のためのチャット機能の活用や、学生同士での人数での議論のためのブレイクアウトルームの活用などの工夫は評価できる。その効果については検証していないようだが、学生へのアンケートやインタビュー等により検証していただきたい。

ほとんどの項目が根拠資料なしとなっているので、自己点検を立証できるように、なんらかの資料を作成あるいは記録することで、提示する工夫をしていただきたい。

## 2 教員・教員組織

### 【2021年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①研究科（専攻）独自のFD活動は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【FD活動を行うための体制】</b> ※簡条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営委員会で以下のような取り組みを行っている。</li> </ul> <p><b>【2020年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】</b> ※簡条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎科目、必修科目、選択必修科目については、選択式と記述式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施し、科目ごとの調査結果を運営委員会に提示し、それを資料として授業改善のための議論を行っている。2020年度は、9月と2月に実施した。これらの内容については、随時、教務委員会に報告し、フィードバックを受けている。</li> </ul> <p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「2020年度授業改善のためのアンケート」。</li> </ul>	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・労働組合、協同組合、NPOの3つのプログラムの専任教員は、それぞれの専門領域に応じて研究活動や社会貢献活動などを実施している。それぞれのプログラムの専任教員はひとりずつなので、活動の活性化や資質向上については、各教員の判断に任せている。ただし、授業のひとつ「連帯社会とサードセクター」は、事前予約制により一般の聴講を認めており、「社会貢献活動」の一環といえる。また、この授業は、現場の第一線で活躍している人々から講義を受けるもので、それを通じて、研究活動に現場の声を反映させていく一助になっている。</li> </ul> <p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	
③組織編制やFD等に関して、COVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。	
<p>※取り組みの概要を記入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議をオンラインで実施しているが、組織編制やFDに影響はないと思われる。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	

#### (2) 長所・特色

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし。	

### (3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし。	

### 【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートは、大学の準備したものだけでなく連帯社会インスティテュートにおける独自の授業評価アンケート調査を作成実施し、授業改善の議論の資料とされていることは大いに評価できる。

労働組合、協同組合、NPOの3つのプログラムの専任教員は、それぞれの専門領域に応じて研究活動や社会貢献活動などを実施している。「連帯社会とサードセクター」の授業は、事前予約制により一般の聴講を認めており「社会貢献活動」の一環となり、また、研究活動に現場の声を反映させていく効果がある。

COVID-19 対応・対策のため会議をオンライン化し、問題なく組織編制やFDが行われていることは、高く評価できる。

## 3 その他の基準の COVID-19 への対応

### 【2020年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

3.1 その他、学生支援や学生の学習環境や教員の教育環境整備、社会貢献における COVID-19 対応・対策を行っているか。
①その他、研究科として学生支援や学生の学習環境や教員の教育研究の環境整備、社会貢献等における COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。
※取り組みの概要を記入
・特になし。
【根拠資料】
・

### 【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートは、学習支援やオンラインでの指導方法等について、運営委員会、教務委員会、また、連帯社会研究交流センターとの会等議において議論が行われていることがインタビューにより確認できた。今後の対応としては、議論等を行った場合には、議事録として残しておく必要があると考えられる。

## III 2020年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	○授業科目 ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて自己点検を行い、必要に応じて見直しを行う。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取し、正規の院生として入学する割合を高めるとともに、入学後にメリットがでるように検討する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人大学院という性格を踏まえ、修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討を行い、必要と判断されれば、導入する。</li> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく各プログラム担当教員とプログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検を行い、見直しを行う。</li> </ul>
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名（以下、プログラム担当教員）は、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて自己点検を行い、その結果をもちより、授業改善に向けた検討を行う。</li> <li>・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について、教務委員を中心に、検討する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人大学院という性格を踏まえ、教務委員を中心に、修士論文に加え、リサーチペーパーを認めるかどうか検討するため、他研究科などの実態を把握する。</li> <li>・プログラム担当教員は、プログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検を行い、見直しを行う。</li> </ul>
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3プログラム制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて、各プログラム担当教員による自己点検のフォーマットが作成されること。</li> <li>・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について検討する会議を開催し、それらが決定されること。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討するため、他研究の実態などを把握し、メリット・デメリットが整理されること。</li> <li>・3プログラム制に基づく各プログラム担当教員は、プログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検フォーマットを作成すること。</li> </ul>
		教授会執行部による点検・評価
		自己評価 A
年度末報告	理由	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3プログラム制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて、シラバスの目標に基づき、点検、意見交換が行われ、来年度にフォーマットを作成する準備を進めている。</li> <li>・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について、履修時に独自のアンケートを行い、要望をくみ取ることが決定された。</li> </ul> <p>○修士論文</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサーチペーパーを認めるかどうか、検討するため、他研究の実態などの把握を進めている。</li> <li>・各プログラム担当教員は、プログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、開始時と、中間時、終了時の授業にコメント受ける。フォーマットは来年度に作成する予定。</li> </ul>
	改善策	—
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法については学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて検討していく。</li> <li>・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないので、把握、検討していく必要があるかどうか、議論し、必要に応じた措置をとる。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検を行うとともに、他大学院や他法政大学の他研究科の方法なども調査し、必要な見直しを行う。</li> </ul>
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法については学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて教務委員を中心に検討する。</li> <li>・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないので、把握、検討していく必要があるかどうか、教務委員を中心に議論する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、教務委員を中心に検討を行う。</li> </ul>
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法については、学習効果を上げるためのFD実施に関する会議が行われること。</li> <li>・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないが、把握、検討していく必要があるかどうか、議論する会議が行われること。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、会議を開催し、変更の必要性について検討すること。</li> </ul>
	年度末報告	<p>教授会執行部による点検・評価</p> <p>自己評価 A</p> <p>理由</p> <p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果を上げるためのFD実施に関する会議を開催した。その結果、他大学のオンライン授業の方法を学ぶ必要性などが確認された。</li> <li>・非常勤の教員の教育方法について、把握、検討していく必要について議論する会議を開催し、必要性は確認されたが、実際法方法は来年度以降に検討することになった。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて会議を開催、副査に事前に草稿を送り、指導を受ける方式検討することになった。</li> </ul> <p>改善策 —</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
	中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準を検討し、この基準に基づき、到達度を図る可能性について調べ、必要な場合は、導入する。</li> <li>・オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討するとともに、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正を行う。</li> <li>・個々の教員の担当科目、オムニバス授業とともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、割合を高める措置を検討、導入する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告について、出席と報告の確認だけではなく、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みを検討し、必要な措置をとることにより、論文のレベルアップをはかる。</li> <li>・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討し、導入に務める。</li> </ul>
3	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名は、各担当科目について、シラバスの「到達目標」を把握する基準（以下、到達目標基準）に関する案を作成し、この基準案について、検討する。</li> <li>・オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、教務委員が同様の基準案を作成、検討する。</li> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名は、各担当科目、オムニバス授業とともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握する方法を検討し、その方法に基づき、把握する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて、教務委員が中心になり、判断する枠組みを検討する。</li> <li>・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を、教務委員が中心になり、検討する。</li> </ul>
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名が担当している科目については到達目標基準に関する案を各教員が作成すること。作成された案は、3教員全員で検討し、妥当とされる割合が80%以上になること。</li> <li>・オムニバス授業についても、同様の基準案が作成され、3教員により妥当とみなされること。</li> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名の担当科目、オムニバス授業とともに、履修した院生が単位を取得した割合（院生の個人的な理由で履修できない場合を除く）を把握する方法を策定すること。その方法に基づき、学期末に単位取得の割合を把握すること。この割合が80%以上（受講生が5人未満の場合は66%以上、3人未満は対象外）になること。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などを判断する枠組みを検討する会議を、年度内に開催すること。</li> </ul>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討する会議を、年度内に開催すること。</li> </ul>
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名が担当している科目については到達目標基準に関する案を各教員が作成の準備を進めているが、完成に至っておらず、来年度に先延ばすることになった。</li> <li>オムニバス授業についても、同様の基準案が作成され、3教員により妥当とみなされることになった。</li> <li>3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名は、担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合を成績評価時に把握することとした。その結果、学期末に単位取得の割合は、いずれも目標値の80%以上となった。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などを判断する枠組みを検討する会議を開催したが、具体的な枠組みの決定は来年度に行うことになった。</li> <li>論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討する会議を開催したが、具体的な枠組みの決定は来年度に行うことになった。</li> </ul>
改善策	—	
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握し、改善を図る。</li> <li>一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、検討し、予算措置を含め、必要な手段を実施する。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準などについて検討し、改善策を探る。</li> <li>留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討し、可能な措置を導入する。</li> <li>社会人大学院では、OB/OGの推薦が学生募集に大きな影響を与える。このため、OB/OGと在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段を検討、可能な措置を導入する。</li> </ul>
	年度目標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握する方法を教務委員を中心に開発する。</li> <li>一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、予算措置を含め、教務委員を中心に必要な手段を検討する。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準などについて教務委員を中心に検討する。</li> </ul>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検する。</li> <li>・OB/OG と在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段を教務委員を中心に検討する。</li> </ul>
	達成指標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握するための方法を決定すること。</li> <li>・一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを最低2回実施すること。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、予算措置を含め、必要な手段を検討し、実施案をまとめること。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準案を作成すること。</li> <li>・留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討するための会議を開催すること。</li> <li>・OB/OG と在校生、潜在的受験生のつながりを作る必要性について検討し、結論をえること。</li> </ul>
		教授会執行部による点検・評価
	自己評価	B
年度末報告	理由	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦入試については、連帯社会研究交流センターを通じて、修了後一定期間をへてから推薦団体に満足度を確認を依頼することが確認された。</li> <li>・一般入試については、NPO プログラムを中心に広報案を作成することが確認された。また、協同組合の広報の課題の抽出と実施方法を検討することになった。インスティテュート独自の説明会や、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、予算措置を含めた実施案作成には至っていない。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者の質的水準の確保に向け、口述試験の評価基準を検討していくことになり、研究能力、共同で研究するうえでの求められる資質（柔軟性・協調性など）とともに、研究環境の整備の必要性などの意見が出されたが、決定に至っていない。</li> <li>・留学生の受け入れ拡大に向けて、既存の英文のパンフの活用をはかることが確認された。</li> <li>・OB/OG と在校生とのつながりを作ることについては、入学式、修了式後などに交流の機会の設定していくことになった。</li> </ul>
	改善策	会議を通じて、課題の抽出や対応策についての案は提示されたものの、実施に踏み出せていないのが現状である。実施に向けた会議を開催し、結論をえるとともに、実施体制を整備していく。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	<p>○非常勤の教員の考えのインプット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教員が3名と少ないため、授業において、非常勤の教員への依存度は小さくない。非常勤の教員は、インスティテュートの院生の養成目的を達成するために重要な位置を占めているという認識に立ち、非常勤の教員の考えをインプットする仕組み（意見交換会など）を検討し、必要な措置を導入する。</li> </ul>
	年度目標	○非常勤の教員の考えのインプット

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		・非常勤の教員の考えをインプットする前提として、カリキュラムにおける担当科目の位置づけや評価などに関する、非常勤の教員の考えの把握に、プログラム担当教員が分担して行う。	
	達成指標	○非常勤の教員の考えのインプット ・カリキュラムにおける担当科目の位置づけや評価などに関する、非常勤の教員の考えの把握するための手法を検討、決定すること。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	○プログラム担当教員の会議を開催し、非常勤の教員の考えのインプットを受ける方法について検討し、各プログラム教員がフィードバックを受けることが確認された。しかし、実施に至っていない。
		改善策	各プログラム教員が非常勤の教員からフィードバックを受ける方法を決定するために会議を開催する。
No	評価基準	学生支援	
6	中期目標	○授業・論文指導 ・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムの改善策を検討し、必要な措置を導入する。論文指導に関しては、主指導ひとりの体制だが、複数の教員による指導の可能性を検討し、必要と判断された場合、その方法について検討、実施する。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行い、ニーズが高いものについて、導入の可能性を検討し、可能な場合は、導入する。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握などのため、院生会の設立を学生とともに検討し、必要かつ可能であれば、設立する。また、院生会をはじめとした学生とともに、学生支援などに関する話し合いの場の設定を検討、必要な場合、設ける。	
	年度目標	○授業・論文指導 ・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムを、各教員がどのように行っているか、把握するための方法を、教務委員が中心になって議論、決定する。 ・論文指導に関しては、院生にニーズ把握を行う以前の作業として、複数の教員による指導を行うことのメリットとデメリットなどを、教務委員が中心になって検討し、整理する。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行うための方法を決定、実施、ニーズ内容を整理すること。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を、教務委員が中心になって検討する。	
	達成指標	○授業・論文指導 ・授業について、各教員は、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムを、各教員がどのように行っているか、会議を開催し、現状を把握すること。論文指導に関しては、複数の教員による指導のニーズ把握に先立ち、複数の教員による指導を行うことのメリットとデメリットなどを、教務委員を中心に検討し、整理、ニーズ把握を行うかどうか、結論をえること。 ○その他	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援に関連して、教務委員を中心に院生のニーズ把握を行う必要性や方法を検討し、結論をえること。</li> <li>・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を教務委員を中心に検討、具体的な方法を決定すること。</li> </ul>
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<p>○授業・論文指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムを、各教員がどのように行っているか、会議を開催し、全員がオフィスアワーを設定していることが確認された。論文指導に関しては、複数の教員による指導を行うことのメリットとデメリットなどを検討した結果、副査への事前の草稿のチェックを依頼することになった。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援に関連して、プログラムごとにニーズ把握を行うことになった。</li> <li>・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための具体的な方法などについては、議論を行ったが、決定に至っていない。</li> </ul>
	改善策	—
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○連帯社会の構築を担う実務家を育成することを通じて、社会に貢献し、社会と連携するという本インスティテュートの設立目的を持続的に果たす。</li> <li>○専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信することによって社会に貢献し、社会と連携することを目指す。</li> </ul>
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、各教員は、入学者の卒業割合を高く維持するよう努める。</li> <li>○専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信する方法について検討する。</li> </ul>
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、入学者の卒業割合を80%以上に維持すること。</li> <li>○専任教員は、著書・論文・学会発表・講演などの形で複数回、研究成果を外部に発信すること。この研究成果の発信方法について検討し、具体的な方策が決定されること。</li> </ul>
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>○入学者の卒業割合を80%以上に維持できている。</li> <li>○専任教員は、著書・論文・学会発表・講演などの形で複数回、研究成果を外部に発信している。この研究成果の発信方法については、大学の業績開示のサイトを利用することが確認された。</li> </ul>
	改善策	—
<p><b>【重点目標】</b></p> <p>学生支援における「学習支援」方法の改善</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b></p> <p>学部卒業からかなり期間をへているうえ、就労にともなう時間的な拘束が長い社会人学生を主体としているため、従来の院生とは異なる支援策が必要と推察される。このため、学習支援に関する院生のニーズ把握を行うための方法を決</p>		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

定、実施、ニーズ内容を整理したうえで、院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を検討していく。

#### 【年度目標達成状況総括】

年度の目標達成状況を総括したなかで、目標の進捗状況を確認するために限定した会議を行ってこなかったことが指摘された。この点を踏まえ、今年度は、進捗状況の確認や課題の抽出、解決に向けたプランの検討などを実施していくための会議を2回開催した。これにより、年度目標の達成度が向上したと判断している。しかし、コロナ禍により、授業や指導の大半がオンラインに切り替わったことにより、会議を開催し、議論を通じて、課題解決への方向性や手法が提起されたものの、実施するに至らなかったものも少なくない。未実施のものは、来年度に引き継いでいくことになる。

#### 【2020年度目標の達成状況に関する大学評価】

連帯社会インスティテュートの2020年度の達成状況については、教育内容、教育方法、教育成果については、ほぼ達成できていると評価できる。ただし、具体的な学習成果を把握・評価するための方法については、今後の対策が期待される。

一方、学生の受け入れ、非常勤の教員の考えのインプット、については、達成が不十分であり、適切な会議を通じた実施体制の構築が不可欠である。

重点目標である、学生支援における「学習支援」方法の改善については、COVID-19対応のため、進捗していないようなので、引き続き検討していくことを期待する。

#### IV 2021年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて自己点検を行い、必要に応じて見直しを行う。</li> <li>・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取し、正規の院生として入学する割合を高めるとともに、入学後にメリットがでるように検討する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人大学院という性格を踏まえ、修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討を行い、必要と判断されれば、導入する。</li> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく各プログラム担当教員とプログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検を行い、見直しを行う。</li> </ul>
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名（以下、プログラム担当教員）は、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて2020年度に自己点検を行った結果を踏まえ、毎年見直しを行うためのフォーマットを作成する。</li> <li>・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について、教務委員を中心に決定する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人大学院という性格を踏まえ、教務委員を中心に、修士論文に加え、リサーチペーパーを認めるかどうか検討するため、他研究科などの実態を把握した資料を作成する。</li> </ul>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム担当教員は、プログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検を行い、見直しを行うためのフォーマットを作成する。</li> </ul>
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> <li>・3プログラム制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などに基づき、各プログラム担当教員による自己点検のフォーマットが作成されること。</li> <li>・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について検討する教務委員会を開催し、それらが決定、実施の体制が整備されること。</li> </ul> </li> <li>○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討するため、他研究の実態などを把握し、メリット・デメリットが整理された資料が作成されること。</li> <li>・3プログラム制に基づく各プログラム担当教員は、プログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検フォーマットを作成されること。</li> </ul> </li> </ul>
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法については学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて検討していく。</li> <li>・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないので、把握、検討していく必要があるかどうか、議論し、必要に応じた措置をとる。</li> </ul> </li> <li>○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検を行うとともに、他大学院や他法政大学の他研究科の方法なども調査し、必要な見直しを行う。</li> </ul> </li> </ul>
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法については、学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて、他の研究科や大学の授業の方法を調査、整理すること。</li> <li>・非常勤の教員については、教育方法について把握、検討していく具体的な方法を議論し、決定すること。</li> </ul> </li> <li>○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、教務委員を中心に見直しを行うこと。</li> </ul> </li> </ul>
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法については、学習効果を上げるためのFD実施に関して、他研究科や大学の授業方法を調査、整理されること。</li> <li>・非常勤の教員については、教育方法について把握するための具体的な方法について決定されること。</li> </ul> </li> <li>○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、それぞれ維持か変更かを判断し、変更の場合、新たな方法が決定されること</li> </ul> </li> </ul>
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	○授業科目

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準を検討し、この基準に基づき、到達度を図る可能性について調べ、必要な場合は、導入する。</li> <li>・オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討するとともに、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正を行う。</li> <li>・個々の教員の担当科目、オムニバス授業とともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、割合を高める措置を検討、導入する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告について、出席と報告の確認だけではなく、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みを検討し、必要な措置をとることにより、論文のレベルアップをはかる。</li> <li>・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討し、導入に務める。</li> </ul>
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準を作成の必要性を検討し、必要な場合は、この基準を設定し、導入する。</li> <li>・オムニバス授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討するとともに、必要な場合は、導入する。また、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正を行う。</li> <li>・個々の教員の担当科目、オムニバス授業とともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、割合を高める措置を検討、具体策を決定する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告について、出席と報告の確認だけではなく、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みを検討し、基準や指標に基づく指導体制を決定する。</li> <li>・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討し、導入に向けた行程表を決定する。</li> </ul>
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準の必要性が検討され、必要な場合は、導入に向けた行程表が決定されること。</li> <li>・オムニバス授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討するとともに、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正が行われること。</li> <li>・個々の教員の担当科目、オムニバス授業とともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、割合を高める措置を検討、次年度以降の導入に向けた道筋が決定されること。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みが決定されること。</li> <li>・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討し、導入の是非を決定すること。</li> </ul>
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握し、改善を図る。</li> </ul>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、検討し、予算措置を含め、必要な手段を実施する。</li> <li>○その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準などについて検討し、改善策を探る。</li> <li>・留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討し、可能な措置を導入する。</li> <li>・社会人大学院では、OB/OGの推薦が学生募集に大きな影響を与える。このため、OB/OGと在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段を検討、可能な措置を導入する。</li> </ul> </li> </ul>
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○入試広報 <ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦入試については、連帯社会研究交流センターを通じて、修了後一定期間をへてから修了生および推薦団体に満足度の確認を依頼する。</li> <li>・一般入試については、NPOプログラムを中心に広報案を作成する。また、協同組合プログラムの広報の課題の抽出と実施方法を検討する。インスティテュート独自の説明会や、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、予算措置を含め検討する。</li> </ul> </li> <li>○その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者の質的水準の確保に向けた口述試験の評価基準について、2020年度に議論された研究能力、共同で研究するうえでの求められる資質（柔軟性・協調性など）とともに、研究環境の整備の必要性などをベースに、具体的基準を決定する。</li> <li>・留学生の受け入れ拡大に向けて、既存の英文のパンフの活用をはかる方法を決定する。</li> <li>・2020年度にOB/OGと在校生とのつながりを作ることについては、入学式、修了式後などに交流の機会の設定していくことになったことを踏まえ、その場に潜在的な受験生の参加のあり方について検討する。</li> </ul> </li> </ul>
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○入試広報 <ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦入試については、修了生および院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握し、その回答が整理されること。</li> <li>・一般入試については、NPOプログラムを中心に広報案が作成されること。協同組合プログラムの広報課題の抽出し、課題に対応した広報手段が決定されること。</li> <li>・インスティテュート独自の説明会や、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について検討結果が出され、次年度以降に具体化されるメドがつけられること。</li> </ul> </li> <li>○その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準案が作成されること。</li> <li>・留学生の受け入れ拡大に向けて、既存の英文のパンフの活用をはかる方法を決定されること。</li> <li>・OB/OGと在校生とのつながりを作ることについては、入学式、修了式後などに交流の機会の設定していくことになったことを踏まえ、その場に潜在的な受験生の参加のあり方について決定されること。</li> </ul> </li> </ul>
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	○非常勤の教員の考えのインプット

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>専任教員が3名と少ないため、授業において、非常勤の教員への依存度は小さくない。非常勤の教員は、インスティテュートの院生の養成目的を達成するために重要な位置を占めているという認識に立ち、非常勤の教員の考えをインプットする仕組み（意見交換会など）を検討し、必要な措置を導入する。</li> </ul>
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○非常勤の教員の考えのインプット</li> <li>・2020年度にプログラム担当教員の会議を開催し、非常勤の教員の考えを受ける方法について検討し、各プログラム教員がインプットを受けることが確認されたことを受け、教務委員会でインプットを受ける方法を決める。その方法に基づき、各教員は、非常勤の教員からインプットを受け、教務委員会と運営委員会で共有し、次年度以降に具体策を導入するメドをつける。</li> </ul>
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○非常勤の教員の考えのインプット</li> <li>・教務委員会でインプットを受ける方法が決定され、その方法に基づき、非常勤の教員からインプットを受け、教務委員会と運営委員会で共有され、次年度以降に具体策を導入するメドがつけられること。</li> </ul>
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業・論文指導</li> <li>・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムの改善策を検討し、必要な措置を導入する。論文指導に関しては、主指導ひとりの体制だが、複数の教員による指導の可能性を検討し、必要と判断された場合、その方法について検討、実施する。</li> <li>○その他</li> <li>・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行い、ニーズが高いものについて、導入の可能性を検討し、可能な場合は、導入する。</li> <li>・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握などのため、院生会の設立を学生とともに検討し、必要かつ可能であれば、設立する。また、院生会をはじめとした学生とともに、学生支援などに関する話し合いの場の設定を検討、必要な場合、設ける。</li> </ul>
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業・論文指導</li> <li>・授業に関する内容のうち、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムを、各教員がどのように行っているかについては、2020年度に把握された。これを踏まえ、活用策について検討する。</li> <li>・論文指導に関しては、院生にニーズ把握を行う以前に複数の教員による指導を行うことのメリットとデメリット検討が必要という認識がだされ、2020年度に副査への事前の草稿のチェックを依頼することになった。その結果を検討し、改善策を検討する。</li> <li>○その他</li> <li>・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行うための方法を決定、実施、ニーズ内容を整理すること。</li> <li>・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を、教務委員が中心になって具体策を検討する。</li> </ul>
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業・論文指導</li> <li>・授業について、オフィスアワーの活用策について議論され、一定の結論がえられること。</li> <li>・論文指導に関しては、副査へ聞き取りなどを通じて、事前の草稿チェックの効果と課題が抽出され、改善策が提示されること。</li> <li>○その他</li> </ul>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援に関連して、教務委員を中心に院生のニーズ把握を行う必要性や方法を検討し、結論をえることで、次年度以降の支援策が改善される道筋がつけられること。</li> <li>・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を教務委員を中心に検討、具体的な方法が決定されること。</li> </ul>
No	評価基準	社会貢献・社会連携
7	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○連帯社会の構築を担う実務家を育成することを通じて、社会に貢献し、社会と連携するという本インスティテュートの設立目的を持続的に果たす。</li> <li>○専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信することによって社会に貢献し、社会と連携することを目指す。</li> </ul>
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○修了生の割合の高率維持</li> <li>・連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、各教員は、入学者の卒業割合を高く維持するよう努める。</li> <li>○研究成果の発信</li> <li>・専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信する方法について検討する。</li> </ul>
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○修了生の割合の高率維持</li> <li>・連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、入学者の卒業割合を80%以上に維持されること。</li> <li>○研究成果の発信</li> <li>・専任教員は、著書・論文・学会発表・講演などの形で複数回、研究成果を外部に発信すること。この研究成果が大学の業績開示のサイトにアップされていること。</li> </ul>
<p><b>【重点目標】</b></p> <p>「学生支援における学習支援」</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b></p> <p>学部卒業からかなり期間をへているうえ、就労にともなう時間的な拘束が長い社会人学生を主体としているため、従来の院生とは異なる支援策が必要と推察される。このため、学習支援に関する院生のニーズ把握を行うための方法を決定、実施、ニーズ内容を整理したうえで、院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を検討していく。また、出張や残業などによる欠席や遅刻への対策として、オンラインやハイブリッドによる授業の積極的導入を検討する。</p>		

### 【2021年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

連帯社会インスティテュートの2021年度各評価項目は、ほぼ2020年度を引き継いだ内容で、適切な中期目標・年度目標があげられており、それを評価する達成指標も適切であると評価できる。2020年度に対応できなかった、学生の受け入れ、非常勤の教員の考えのインプット、等の項目について、更に具体的な対策が考慮され記載されていれば、2021年度の運営で良い経過が期待できる。

重点目標の「学生支援における学習支援」では、昨年度から引き継いだ施策とともに、オンラインやハイブリッドによる授業の積極的導入の検討が加えられており、社会人学生に対し有効な施策となることが期待できる。

### 【大学評価総評】

連帯社会インスティテュートでは、コースワークで教員から専門領域の学習が提供されたうえで、現場の実態の理解を促すために、理論と同時に実践も学べるような講師陣によるプログラム横断的な科目「連帯社会とサードセクター」を設けている点は評価できる。カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーに基づいて学生の履修指導が適切に行われ、研

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導も適切に行われていると評価できるが、学習成果の測定指標の導入については検討が望まれる。

大学院教育のグローバル化推進にあたり、COVID-19 感染拡大により外国人講師の招聘が困難だったとされているが、オンラインやオンデマンドなどのシステムの利用により、活性化が可能だと考えられる。COVID-19 への対応として、オンライン授業を導入し、様々な工夫をした点は評価できるので、学生へのアンケートやインタビュー等によりその効果を検証していただきたい。研究科として学生支援や学習環境、教員の教育研究の環境整備、社会貢献等における COVID-19 への対応・対策については、学習支援やオンラインでの指導方法等について、運営委員会、教務委員会、また、連帯社会研究交流センターとの会等議において議論が行われていることがインタビューにより確認できた。今後の対応としては、議論等を行った場合には、議事録として残しておく必要があると考えられる。

重点目標の「学生支援における学習支援」では、昨年度から引き継いだ施策とともに、オンラインやハイブリッドによる授業の積極的導入の検討が加えられており、社会人学生に対し有効な施策となることが期待できる。

なお、自己点検・評価シートでの自己点検において「問題点」「長所・特色」が挙げられていなかったが、2020 年度目標が概ね達成されていた場合についても今後の発展のために必要であると考えられる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。